

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

## 経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666

FAX 03-3455-7777

## 経営者への活きた言葉

## 楽ができるのに苦勞を買って出る(リーダーのあるべき姿) 瀧澤 中(作家・政治史研究家)

1. 変わり者には「楽ができるのにわざわざ苦勞を買って出る」といった人物を指すことがある。戦国時代「流浪の関白」といわれた近衛前久はその代名詞といい。関白は公家社会で最も地位が高い。近衛前久はそういう貴人でありながら、まず上杉謙信と盟約を結び、関東に赴く。信じがたいことに、この時の誓書を前久は自身の血で書いている。そしてなんと城の防衛にもあたった。
2. 近衛前久の目的は何であったろうか。前久は、長く続いた戦乱で窮状著しい朝廷を再興したいと願い、それには各地の有力大名を頼るのが早道と考えた。単に頼るだけではなく、大名の手足となって役立つことで自身を認めさせ、大名を動かそうとしたのである。貴人が野に出て、私欲ではなく朝廷のために長時間にわたり京以外で行動し続けたことは、捨て身のリーダーのすさまじい意志力を感じる。
3. 元手も人材も限られた中で、リーダーは何をすべきか。やるべきことは種々あるが、リーダーの背中を見せることは重要である。危機あらばいつでもその身を最前線に進出させ、「かかるリーダーありき」を示すことは、組織をどれほど鼓舞することができよう。(参考:「週刊ダイヤモンド」2024年10月5日号)

## ワンポイント経営アドバイス

## 地方企業、首都回避して海外進出

1. 大手チェーンがしのぎを削り、激しい競争を繰り広げる首都圏には進出せず、一足飛びに海外に活路を見いだす地方企業もある。1946年創業で、和風とんこつラーメン店「スガキヤ」を展開するスガキシステムズ(名古屋市)は、東海、関西地方にラーメン店約250店を展開する。同社は2018年、経済成長するインドネシアに進出し今では6店舗を展開している。スガキヤは過去、関東に進出したことがある。だが、家賃の高さがネックだった。
2. 一方、千葉県君津市を中心に活魚スーパー「富分」を4店舗展開する富分(千葉県君津市)は、ベトナムにスーパーなど6店を展開している。ベトナムの技能実習生5人を受け入れたことがきっかけとなり、18年に実習生が帰国するのを機にベトナム・ハノイへ進出した。その際、富分でノウハウを学んだ実習生に現地店舗の運営を任せた。現地で働く日本人から人気だ。

(参考:「日経ビジネス」2024年9月30日号)

## 海外事情

## 半導体の盟主インテルが苦境に陥る

1. インテルは半導体の設計から製造までを自社で一貫して行う「垂直統合」で、半導体の高性能化につながる微細化を進め業界をリードしてきた。一方、TSMCや韓国サムスン電子はファウンドリー事業により半導体の生産規模を拡大。10年代後半以降、先端技術開発でインテルは後れを取るようになった。93年から30年間安定してA格を保っていた格付けは23年から継続的に格下げが続き、8月にはトリプルB格に下げられている。
2. 2024年1~6月期の営業利益は30億ドルの赤字。半導体大手・米クアルコムがインテルに買収を持ち掛けたという報道が浮上するなど、かつての業界盟主が置かれている状況は非常に厳しい。技術力・業績ともに、かつての輝き取り戻せるのか。インテルの苦悩はしばらく続きそうだ。

(参考:「週刊東洋経済」2024年10月12日号)

## 古典に学ぶ

## 後悔や不安を分析してみる

1. そんな時はいっそのこと、その後悔や不安をじっくり見つめてみましょう。過去を漫然と悔やむのではなく、当時の状況を合理的に分析してみるのです。
2. すると、「まだ未熟だった」「家庭の事情を無視できなかった」「自分を過信していた」など、現時点での自分なりの答えが出てきて「あれはあれで仕方なかったな」と納得できるはずです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)